

7. 詳細説明資料

◇墨は水とほどよく混ざり合うことにより、墨本来の表現力である濃淡や潤滑を生み出すことができます。その表現力を使い描写されるのが水墨画です。

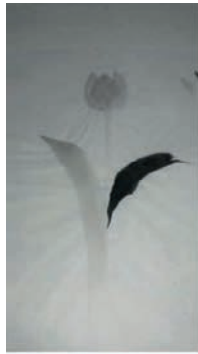
初めは、「チューリップ」、「菖蒲」、「鮎」、「葡萄」、「柿」、「桔梗」、「牡丹」など季節折々の題材のシンプルな作例をお手本に、薄墨の作り方に始まり、墨と筆の扱い方、筆の運び方など水墨画表現のための基本をしつかり学びます。

◇墨を磨(す)り、姿勢を正して筆を持ち、肩の力を抜いてお手本に向かいます。

そして上から、下から、斜めからと自由自在に筆を運び、墨の濃淡が生み出す美しい描画と余白が生み出す奥深い水墨画の世界を楽しんでみませんか？

※令和7年度は、屋外研修会として、6月に八事興正寺(名古屋市)、11月に梨溪山心月齋(美浜町)の水墨画鑑賞に出かけました。

【一年生使用のお手本】



「チューリップ」



「菖蒲」



「桔梗」



「牡丹」



「葡萄」



「柿」

他に「鮎」などがあります。

二年生は、別の「手本」となります。



【作品展示と講評の様子】